

分類の理論と応用に関する研究会会報

No. 11

JAPANESE CLASSIFICATION SOCIETY NEWS

1989. 12. 20

発行 分類の理論と応用に関する研究会 Tel. 446-1501 銀行口座—三菱銀行広尾支店普通0134368
〒106 港区南麻布4-6-7 統計数理研究所気付 振込口座—東京8-83836番

ことばと分類

野 元 菊 雄

分類研究会の方々は圧倒的に理工系あるいは生物系のようです。ことばという、文系そのものわたしが何で分類に関係あるのか、ということになろうかと思います。しかし、どうもことばは分類そのものです。科学はすべて分類と関係があります。これを基礎にしなければ成立しません。

ことばのいろいろな面から考えてみましょう。

まず、音声では、例えば無声の t から有声の d の間にはさまざまな変種があって、中間は連続体をなしています。どこにその境界線を引いて t と d とにわけるのか、というようなことは一つの分類だろうか、と思います。中には t と d との間に境界を認めない言語もあります。この方の境界は認めないけれども、有気の t^h と無気の t との間に境界を設けて厳重に区別のある言語もあります。日本語は t と d との間に境界線を設け、中国語・韓国語は t^h と t との間に境界線を設ける言語であります。中国語や韓国語を母語とする人々は、清音と濁音の発音の区別ができない、「僕」のことを「ボク」と言うなどとすることはこのことです。逆に日本語を母語とする人は中国語や韓国語に重要な有氣音と無氣音との区別ができません。

語彙にも分類があります。語彙は、その言語が森羅万象をどう分割し、どう分類するか、ということだと思います。例えば、太陽光線をスペクトル分析して、その連続体を七つに分割、すなわち分類して、それぞれにどう名づけているか、が日本語です。五つに分ける言語もあり得ます。このように、世界をどう分けているかを反映させているのがソースラスと言われる分類体の辞書です。

天象・地象・人体など分野ごとに語彙を集めて

いる「節用集」というのが、日本の古い時代の辞書でした。辞書はその後、日本で言えば、イロハ順や五十音順のものが主流を占めていますが、わたしの研究所の「分類語彙集」を最初としていろいろ試みられるようになりました。「分類語彙集」はわたしの先代の所長が若いころ作ったもので、自動翻訳などに利用され、今は研究所の刊行物のうちではベストセラーになっています。

文法は分類そのものです。品詞分類からまずは出発します。いろいろの語を、名詞・動詞・形容詞……に分類するのはご存じでしょう。どういう点をインデックスとして分類するかは、その言語によって違います。英語には英語の分類が、日本語には日本語の分類があります。前置詞という分類は日本語には必要ありません。逆に助詞あるいは後置詞は英語では必要ないでしょう。

品詞分類だけでなく、それぞれどういう働きを文の中でしているかによって分類をします。主語というものが日本語に絶対必要なのかどうか。あるいは、これも連用修飾語の一種として扱っていい、と考えることも可能かも知れません。

このようなことばの分類を文系的思弁によってではなく、数学的な考え方を導入してすることは可能です。ことばの場合は、コンピュータも処理速度よりも、細かい操作性が重要だと考えます。この点で、パソコンが適している、とは言えるでしょう。例えば語彙調査では、自動単位切り、自動読み仮名づけ、自動品詞分類、これらによる語彙表作成などが実用化され、その達成率は90%を超えていました。このような考え方はこれから言語研究の重要な部分は、これを一例としたように行われるであります。分類を科学的に考える必要性はこれからますます増大するでしょう。

(国立国語研究所)

平成元・2年度役員の選出結果について

先般行われた役員改選選挙の結果、次の方々が平成元・2年度の会長、運営委員および会計監事として選出されました。

会長

酒井清六（大東文化大学）

運営委員

浅野長一郎（九州大学）、岩坪秀一（大学入試センター）、上田尚一（龍谷大学）、大隅昇（統計数理研究所）、大友篤（宇都宮大学）、奥野忠一（東京理科大学）、後藤昌司（塩野義解析センター）、酒井清六（大東文化大学）、田栗正章（千葉大学）、田中豊（岡山大学）、垂水共之（岡山大学）、丹後俊郎（公衆衛生院）、野元菊雄（国立国語研究所）、芳賀敏郎（東京理科大学）、長谷川政美（統計数理研究所）、馬場康維（統計数理研究所）、林知己夫（放送大学）、村上征勝（統計数理研究所）、矢島敬二（東京理科大学）、柳井晴夫（大学入試センター）、脇本和昌（岡山大学）

会計監事

村上征勝（統計数理研究所）、宮井正弥（姫路獨協大学）

注：運営委員の定員は20名であるが、開票の結果同数があったため、21名となった。

第7回通常総会報告

日 時：平成元年7月22日、16:50～17:10

場 所：統計数理研究所

出席者：大友篤、石塚隆男、上田尚一、塩見正衛、野口岩男、馬場康維、宮井俊一、矢島敬二（以上8名）

平成元年度通常総会が開催された。以下にその要旨を報告する。

1. 会長挨拶

酒井会長が外国出張中のため、大友幹事長が代って挨拶した。

2. 議長選出

宮井俊一氏（農業環境技研）を議長に選出した。

以後の議事は宮井議長が進行した。

3. 議事

1) 新役員の承認

- ・大友幹事長より、総会に先立つ運営委員会で新幹事会が選出されたことが報告され。矢島新幹事長の紹介があった。
- ・つづいて矢島新幹事長より下記の新幹事会役員の紹介があり、この中で、林氏はIFCSのCouncil Committeeをしているということで涉外補佐をお願いした旨の説明があった。これらの役員人事を承認した。

幹事長 矢島敬二（東京理科大学）

幹事

庶務会計 大隅 昇（統計数理研究所）

広 報 高橋伊久夫（アーク情報システム）

涉 外 上田尚一（龍谷大学）

涉外補佐 林知己夫氏（放送大学）

2) 昭和63年度事業報告、同決算報告および会計監査報告

- ・大友幹事長より、昭和63年度事業報告があり、承認した。
- ・馬場幹事より同決算報告があった。所用のため出席できないが、これは宮井・村上両会計監事の監査を受けている旨の報告がありこれを了承した後、同決算報告を承認した。

3) 平成元年度事業計画および予算審議

矢島新幹事長より、平成元年度事業計画案および予算案の説明がありいずれも承認した。
事業計画は以下の通り。

i) 第6回研究報告会の開催

平成元年12月25日（月）に統計数理研究所で開催する。

ii) 第7回シンポジウムの開催

平成元年7月22日（土）に統計数理研究所で開催する。

iii) 会報9, 10, 11号の発行

iv) 会誌の発行

英文紀要の発行を検討する

v) 総会、運営委員会、幹事会の開催

- ・通常総会を第7回シンポジウムのときを開く
- ・運営委員会および幹事会を随時開く

4) 國際分類学会連合（IFCS）関連事項報告

IFCS-89に参加した矢島幹事長（IFCS委員）

《昭和63年度決算書》

平成元年3月31日現在

《収入の部》

平成元年3月31日現在

科 目	細 目	予算額(単位円)	決算額(単位円)
前期繰入金		△105,704	56,496
会 費 収 入	会 費 63年度分 正会員 賛助会員 58~62年度未納分 64年度分 入会金 63年度分 58~62年度未納分	644,000 (403,000) (241,000) (14,000) (2,000)	354,000 (238,000) (60,000) (28,000) (12,000)
雑 収 入	予稿集売上 大会・シンポジウム参加費 (報告集を含む) その他 寄付、広告料	210,000 (10,000) (120,000) (80,000)	267,000 (16,000) (166,000) (85,000)
利 子		0	38
計		748,296	677,534

《支出の部》

科 目	細 目	予算額(単位円)	決算額(単位円)
経常運営関係費	会報印刷代 連絡用印刷費 (総会開催資料、 封筒、葉書等)	212,000 (102,000) (50,000) (60,000)	165,350 (128,400) (0) (36,950)
大 会 開 催 費 (シンポジウム)	報告集印刷代等 開催費(茶葉代等)	220,800 (180,800) (40,000)	290,390 (259,100) (31,290)
事 務 費	人件費(交通費含) 事務用品費 (事務消耗品、 手数料他)	210,000 (200,000) (10,000)	53,542 (40,000) (13,542)
通 信 郵 送 費	会報送付料 会誌切手、その他の 他	64,000 (24,000) (20,000) (20,000)	78,740 (22,200) (0) (56,540)
予 備 費	I F C S 関連	41,496	23,817 (23,817)
計		748,296	611,839

収支差額
収入 (677,534) - 支出 (611,839円) = 差額 (65,695円)

次年度繰越金 65,695円
銀行口座(7,862円)
郵便取り扱い口座(37,000円)
現金(20,833円)

未払い金99,100円が次年度の支出確定分として加わる。

監査の結果、上記のとおり相違ない事を証します。

平成元年7月13日 会計監事

村上 征勝
宮井 正彌

《平成元年度予算書》

《収入の部》

平成元年4月1日現在

科 目	細 目	予算額(単位円)
会 費 収 入	平成元年度 会費 63年度までの未納分 (入会金を含む)	640,000 (336,000) (304,000)
雑 収 入	シンポジウム予稿集 大 会 参 加 費 (報告集を含む) その他の	210,000 (10,000) (120,000) (80,000)
計		850,000

《支出の部》

科 目	細 目	予算額(単位円)
経常運営関係費	会報印刷代 会誌印刷代 連絡用印刷費	307,000 (177,000) (50,000) (80,000)
大 会 開 催 費 (シンポジウム)	報告集印刷代 開催費	220,800 (180,800) (40,000)
事 務 費	人件費 事務用品費他	210,000 (200,000) (10,000)
通信・郵送費	会報送付料 会誌切手、その他の 他	64,000 (24,000) (20,000) (20,000)
予 備 費	I F C S 関連	48,200
計		850,000

(注) 会費収入は次のように算出した('89.3.31現在額)。単位(千円)

平成元年度会費

336

$$\text{正会員 } 180 \text{ 人} \times 2000\text{円} \times 0.6 = (216)$$

$$\text{賛助会員 } 4 \text{ 口} \times 30000\text{円} = (120)$$

$$\text{未納会費 } 304$$

$$\text{全6期未納分会費 } 9 \text{ 人} \times 12000\text{円} \times 0.6 = (65)$$

$$\text{" 入会金 } 9 \text{ 人} \times 2000\text{円} \times 0.6 = (10)$$

$$59\text{年度以降の未納分(述べ人數)} 304$$

$$\text{正会員 } 91 \text{ 人} \times 2000\text{円} \times 0.6 = (109)$$

$$\text{賛助会員 } 4 \text{ 口} \times 30000\text{円} = (120)$$

$$\text{計 } 640$$

から報告があった。

- i) IFCS-89が Virginia 大学で6月27日～30日の日程で開かれた。参加は7組織、16カ国、170人であった。講演数148。
- 6月28日（水）から30日（金）午前までに148の講演を収めることから4つの並行会場方式がとられたが、各会場間の距離がかなりあり、会場間の移動が大変であったことも合わせて、運営方式に対する意見があった。Plenary Session のうち7つは国別のものでこれらも並行して行われた。これを避けるには日程を伸ばすことになる。しかし、3日の日程は適当もある。
- ii) IFCS Council の会合が、28日夜および29日昼に開かれた。総員21名で代理を含めて15人程が出席した。日本からは矢島敬二（IFCS委員）、馬場康維（林知己夫 IFCS委員代理）の二人が出席した。
- 主な議題は、Sokal 会長報告、Legendre 財務担当委員報告、ニュースレター、財務問題、規約変更、IFCS-91、IFCS-93について、新規加盟についてなどであった。
- 新規加盟としてはオランダ、ソ連があり承認した。
- 規約問題は比較的細かい表現上のことが多い。
- IFCS-91は1991年8月6日～9日にエデンバラで開かれる。IFCS-93についてはフランスが引き受ける用意のある旨の発言があった。
- 会議の場所と会長の所属する国とは分けて考えるのがよからうということになったが、結果は必ずしもそうなるとはかぎらない。

第7回シンポジウム報告

日 時：平成元年7月22日（土）、13:00～16:50

場 所：統計数理研究所（東京）

参加者：23名

「生物学における分類をめぐって」という共通テーマのもとに以下の講演がなされ活発な議論が展開された。講演要旨は以下の通り。

『分類構造と系統仮説の論理的関係』－最節約原理と統計学的信頼性をめぐって－

三中信宏（東京大学農学部）

生物分類学の一学派である分岐分類学の観点に立って、分類体系と系統仮説の論理的性格およびそれらをめぐる統計学的問題を論じた。分岐構造と樹形構造およびそのHasse図表現、分岐構造の推定、系統樹の推定、最節約性と一致性の葛藤などについて論じた。

『分岐分類の実際』－数量的系統解析と分類体系の修正－

宮 正樹（千葉県立中央博物館）

系統分類学者（分岐分類学者）の共通見解として「分類群はすべて単系統でなければならない」という考え方がある。しかし、現実の分類体系には非単系統群が含まれている。これは1つの単系統群の中から特殊化したグループを抜き出して単系統群+非単系統群（その他のもの）という2つのグループを作ることが半ば慣習的に行なわれてきたからである。

ここでは、過去の慣習的分類によって作られた分類体系を、分岐分類学的手法によって修正した簡単な例として、Finkのワニトカゲギス属魚類の研究を取り上げた。

『短翅型ハネカクシ類（甲虫目）の形態形質進化と分岐分類学』

直海俊一郎（千葉県立中央博物館）

ハネカクシ類のアリヅカムシ科の形質進化と系統解析を実例に挙げ、分岐分類学の一解析法である過程解析法を提唱した。ハネカクシ類の分岐学的分類の現状を概観し、アリヅカムシ科の系統解析をめぐる諸問題に言及した。それを踏まえ、過程解析法によるアリヅカムシ科の系統関係の決定法について述べた。また過程解析法により系統解析を行なう分岐分類学を、パターン分岐学に対比して、プロセス分岐学として位置付けた。

『アリ群集の分類』

寺山 守（桐朋学園）

生物地理学における動物地理区の問題、特に日本における歴史と現状を取り扱い、あわせて地域性の区分を行なう際の計量的手法の紹介とアリ群集を用いての解析例を示した。さらに、生態学的な情報との関連からも日本の生物相の地域性を吟味した。

『作況と気象に関する分類』－気象の分類とトウモロコシ生産予測への適用の試み－

築城幹典（草地試験場）、塩見正衛（農業環境技研）

農業生産の予測には長期気象予測が不可欠であるが、これはほとんど不可能である。そこで、気象の予測値に代る他の方法として、過去の経験からいくつかの気象の類型を設定し、その中の近い将来に最も起こりそうな気象条件を取り上げ、その類型に対して生産現場の対策を立てることが考えられる。

ここでは、栃木県にある草地試験場で取られた1944年から88年までの45年間の気象データを用いて、各年次をいくつかの類型に分類し、そして各類型の気象条件下でのトウモロコシの生育をモデルを用いて解析した。

IFCS-89に参加して 水田正弘

IFCS-89 (2nd Conference International Federation of Classification Societies) は1989年6月27日から30日まで、アメリカ合衆国シャーロッカービル市バージニア大学において開催されました。バージニア大学には、Hamparsum Bozdogan氏をはじめ、この分野で活発に活動している方が多く、大学の名前は聞き慣れておりましたが、シャーロッカービル市の名前は初めて耳にしました。大会参加の手続きをした後に送られてきたパンフレットを見ますと、シャーロッカービル市はワシントン市から南西に約190kmの場所にあり、バージニア大学を中心とする市だそうです。はじめてのアメリカ合衆国ですので、近郊にある「Endless Caverns」とか、ニューヨークやワシントンなどの都会を色々、観光でもしようかなどと考えてもみましたかが、まじめな公務員といったしまして、1日でも長く大学に滞在して、多くの研究成果を吸収しようと決めました。

6月26日に1人で成田を出発し、いくつかの飛行機を乗り継いでシャーロッカービル市に着いたのはその日の深夜11時近くでした。最後に乗った飛行機は30人乗りの小型機です。よく話には聞く事ではありますが、自分の荷物が途中で消えてしまったのは初めての経験でした（幸い2日後にはホ

テルに届けられました）。次の朝には、芳賀、矢島、馬場、今泉先生とお会いすることができました。私が泊まったホテルは民間の経営であります。大学の用地内にあります。ホテルの廊下から外を見る事ができ、電線ではリスが走り回っていました。しかし、大学の用地内といつても向いにはガソリンスタンドがあり、近くにはコンビニエンス・ストアや酒屋などがあります。ホテルから大学の会場までは歩いて10~20分ほどかかります。暑い日ではありましたが、湿度が低いために適度な散策の時間を楽しめました。途中にある大学の建物はどれも煉瓦調に統一されています。体育館でさえ外観は他の校舎と同じです。私の勤めている北海道大学は、かなり広々しておりますが、建物の風格に関しましては全くかないません。27日の夕方にRegistrationを済ませました。そのとき、University Transit Serviceのチケットをもらいました。これは、大学内およびその周辺を4系統のバスが1時間に付き3~4本走っているものです。大学の外れにあるBarracks road shopping centerなどで買物をしたり、疲れたときに大会の会場からホテルまで帰るのに利用いたしました。RegistrationのあとにはReceptionがありました。28日の朝のOpening Welcomeから発表が本格的に始まりました。午後2時からいくつかのGuided Tourがありましたので、私はGuided Tour Bayly Art Museum and Rotundaに参加いたしました。これは大学にある博物館等を見学する企画です。アメリカやヨーロッパの絵画や彫刻はもちろんのこと、中国などの掛軸、陶器、その他、各種の遺跡からの発掘物などが展示されていました。29日は終日研究発表がありましたが、夜にはBanquetが大学のホールで開かれました。このホールは、天井の高さ、内装の良さ、広さからして大学の建物とは思えないものでした。たまたま隣に座ったカナダ人と、日本の計算機や第5世代コンピュータなどについて話しました。ホテルに帰る途中の芝生で、蛍が飛び交っていたのが印象的でした。30日の1時30分まですべての研究発表が終わりました。夕方には、矢島、馬場、今泉先生、その他各国からの研究者数名と共に、Hamparsum Bozdogan氏のご自宅でのバーベキューパーティに参加させていただきました。Hamparsum Bozdogan氏は

統数研に滞在されていたこともあり、かなりの日本通です。ワシントン市で買われたフリカケなどを用意されていました。最後には、矢島先生がその場で作られた焼きおにぎりで締めくくられました。

研究会は、4つ程度の発表を同時に行い、合わせて148件の報告がありました。クラスター分析や判別分析は当然のこと、MD S、時系列、数量化などのデータ解析の方法やそれらの応用など広範囲な分野が扱われました。テーマの動向をお伝えする一助として、Abstracts の Keywords をまとめた結果を以下に述べます。148件の研究発表のそれぞれに複数の Keywords が付けられています。これらを合わせると、400個になりました。clustering (8) [以下()内に頻度を書きます]、classification (5) は当然として、ultrametric (5)、multidimensional scaling (4)、hierarchical clustering (4)、similarity (3)、pattern recognition (3)、expert system (3)、correspondence analysis (3)、cluster validity (3) と続きます。Keywords の表現の仕方が各自異なるので、Keywords を単語に分解して集めた819個の単語を集計してみました。analysis (27)、classification (24)、clustering (20)、method (17)、of (14)、data (14)、cluster (14)、algorithm (13)、hierachical (10)、ultrametric (7)、model (7)、system (7)、similarity (6)、scaling (6)、optimization (6)、likelihood (6)、estimation (6)、distance (6)、test (5)、table (5)、pattern (5)、lattice (5)、dissimilarity (5)、discriminant (5)、correspondence (5)……となっています。of (14) などのように無意味なものも含まれていますが、多少の傾向は出ていると思います。個人的には、人工知能とパターン認識のセッションや計算機に関するセッションに最近の研究の動向を感じることができました。特に、Expert system のデータ解析への適用の可能性とその難しさを再確認いたしました。

日本からは、先の4名および私以外にも、長谷川、田崎、花泉、横田先生が発表されました。また、トロント大学の西里先生も参加されていました。ただ、本大会をオーガナイズされた大隅先生が在外研究員としてフランスに出張中で、参加できなかつたのは残念でした。(北海道大学工学部)

運営委員会記録

第1回運営委員会報告（平成元・2年度）

日 時：平成元年7月22日（土）11:00～12:00

場 所：統計数理研究所

出席者：大友篤、上田尚一、馬場康維、矢島敬二、柳井晴夫、今泉忠（広報担当幹事）
(出席者 6名)

1. 始めに、大友幹事長より挨拶があり、平成元年度・2年度役員（会長、運営委員、会計監事）選挙結果の報告があった。選挙の結果平成元・2年度の新会長に酒井清六氏が選出された。

2. 外国出張中の酒井会長より会議の議長を大友幹事長にお願いする旨のメッセージがあることが事務局より報告され、大友幹事長を会長の代理として議長とすることを了承した。以後の議事は大友幹事長が進行した。

3. 議事

1) 新幹事会幹事の選出。

- 新幹事長に矢島敬二氏（東京理科大学）を選出した。
- 矢島新幹事長より幹事として、上田尚一（龍谷大学）、大隅昇（統計数理研究所）、高橋伊久夫（アーク情報システム）3氏の推薦がありこれを了承した。また、IFCSの委員である林知己夫氏（放送大学）を涉外補佐として幹事会のメンバーとすることを決めた。

2) 第7回通常総会について

- 第7回総会を7月22日統計数理研究所で開くこととした。
- 総会の議題について討議し、幹事会案を承認した。
- 昭和63年度決算書（案）および同事業報告（案）について検討し、決算書の形式を一部修正することで総会への提出を承認した。
- 平成元年度予算書（案）および同事業計画について検討し総会への提出を承認した。

3) 国際分類学会連合(IFCS)関連事項報告ならびに討議

矢島 IFCS 委員より米国（バージニア大学）で開かれたIFCS-89大会のもよう、IFCSの Coun-

cil Committee における討議内容などの報告があった。(第7回総会報告参照)

4) 新入会員の承認

新入会員4名を承認した。

幹事会記録

第5回幹事会議事録(昭和62・63年度)

日 時：昭和63年6月14日(火) 18時～20時

場 所：統計数理研究所会議室

出席者：酒井清六(会長)，大友篤(幹事長)，馬場康維，今泉忠

大隅昇，矢島敬二(IFCS担当委員)

議事

1. 第6回シンポジウムについて

プログラムの検討をした。

2. 総会について

総会をシンポジウム終了後，行なう事とした。

3. 運営委員会の開催について

時間的な制約があるので，書面審議で代替する事とした。

4. 昭和62年度決算報告(案)，昭和63年度予算(案)について

馬場幹事より説明がなされた。会報7号と予稿集の印刷費が予算超過したため，昭和62年度は赤字であることと印刷費の増大は避けられない旨の説明もなされた。討議の結果，各年度内での未収，未払いを決算報告に記載することとした。

予算案については，昭和62年度での赤字分を記載する事とした。

5. IFCS関連

大隅委員からIFCS-89に日本から参加する招待講演者について報告があった。

6. その他

・収入増加の方策(会費請求，プログラム販売，広告募集など)などについて話合った。

・印刷費に関連して，会報の予算を抑えるよう努力する。

・馬場幹事より役員改選の時期についての説明があった。

第6回幹事会議事録(昭和62・63年度)

日 時：昭和63年11月17日(火) 18時～21時

場 所：統計数理研究所会議室

出席者：大友篤(幹事長)，馬場康維，今泉忠，大隅昇，矢島敬二(IFCS担当委員)

議事

1. IFCS関連

矢島IFCS担当委員から以下の事柄について説明があり，それについて承認した。

1) IFCS委員の任期について

IFCS委員の任期確認についての連絡があった。検討の結果，現在の2委員(林知己夫，矢島敬二)の任期を1990年12月31日までとする事とした。なお，IFCSの規約により任期満了後は新役員を選ぶこととなる。

2) IFCS役員人選について

IFCSの副会長とAdditional membersの改選選挙がある為，IFCS委員による投票が必要である。検討の結果，IFCSの慣例に従って，副会長は，J.C.Gowerに投票することとした。また，2名のAdditional membersの1名として大隅昇涉外補佐を推薦することとした。もう1名についてはIFCS委員に一任することとした。

3) IFCS-89のProceedingsについて

以下の3案がIFCSから提案されており早急に返事を出す必要がある。

(a) 従来のように，一人1ページとしたAbstract集のみを発行する。

(b) (a)案の発表論文からいくつかを抜粋し，J.N.A.C.S.に掲載する

(c) 前大会と同じく，Proceedingsを発行する。ただし，この案の場合には，参加費が\$20高くなる。検討の結果，IFCS委員に一任する事とした。

4) Newsletterの発行について

1年に2回IFCSの会員宛てのNewsletterの発行計画があるが，この事について，賛成かどうか，また，賛成である場合にはその費用としてどの程度を徴収すれば良いかということが問題になっている。大隅涉外補佐からは，費用の件に関連して，前に送った寄付金は一時的なものである旨をIFCSへ通知する必要があるとの意見が出された。検討の結果，Newsletterの発行については賛成であるが，その運営方法についてはIFCS

で検討する必要があるとの意見にする事とした。手紙の文章等は IFCS 委員に一任する事とした。

2. JCS 役員改選について

昭和64・65年度役員の選出の手順等について馬場幹事が説明した。

岩坪秀一氏と長谷川政美氏の両氏を選挙管理委員候補とした。

12月24日に運営委員会を開催し、関連議題を決定する事とした。

3. 第5回研究報告会について

馬場幹事より、パソコンの画面を OHP の原稿として使用できる旨の報告があった。また、11月17日現在の発表申込者数の報告があり、招待講演者として、村上征勝氏にお願いしたいとの希望が出された。開催時間は10時30分から15時30分を予定している旨の報告があった。検討の結果、これらを了承した。

4. セミナー開催について

馬場幹事より、研究会の資金確保として、セミナー開催を考えていたが、大友幹事長のお世話で日本能率協会の定期セミナー計画に組入れて頂ける予定である旨の報告がなされた。大友幹事長より、この事について説明があった。テーマは「データ解析と統計ソフトウェア」に関する事である。具体的に内容・日程、講師の選定等は日本能率協会との打ち合せに決定する。

5. 会報発行について

馬場幹事より12月に会報を発行する予定である旨の報告があった。

6. JCS 名簿について

JCS 会員名簿を整備中である旨の報告があった。

7. 新入会員について

馬場幹事より、新入会員候補を運営委員会に誂っている旨の報告が為された。

第7回幹事会議事録

会報No.10に既報のため割愛する。

第8回幹事会議事録

日 時：平成元年5月8日（月）18時～20時

場 所：統計数理研究所新館特別会議室

出席者：酒井清六（会長）、大友篤（幹事長）、上

田尚一、馬場康維、今泉忠
矢島敬二（IFCS担当委員）

議事

1. 第7回シンポジウムについて

馬場幹事より、酒井会長をオーガナイザーとして、生物学における分類などをテーマとした第7回シンポジウムを1989年7月22日（土）に行ないたい旨の提案があった。他学会との関係からもこの日が適当であるとした。

プログラム等について検討した。

会場は統数研新館研修室を借りることとした。

2. 運営委員会について

運営委員会をシンポジウムと同じ日の12:00～13:00に開催することとした。

3. 昭和63年度決算について

馬場幹事長より昭和63年度決算案が示され、説明がなされた。矢島委員より未払金の扱い（科目）が不適当ではないかとの意見が出された。検討の結果、修正することとなった。

4. 平成元年度予算について

馬場幹事より、報告会およびシンポジウムの参加費を2000円として予算案を作成したいとの案が出された。検討の結果、了承された。その他、定期的収入を図る等の件が検討された。矢島委員より、昭和63年度決算案での通信費・郵送費の増加が大きい旨の指摘があった。

5. 役員選挙について

馬場幹事より、役員選挙について説明があった。

6. 退会について

馬場幹事より、退会希望者についての報告があった。

7. その他

シンポジウムの関西地区での開催案が出された。検討の結果、テーマ、日程、会場等その可能性等について検討することとした。

研究報告会を12月25日頃に開催することとした。

●国際研究集会のお知らせ

- 下記の集会の案内が来ております。関心のある方はお問い合わせ下さい。
- International Conference Forensic Statistics-Law, Statistics and Probability, 2–4 April, 1990, Univ. of Edinburgh, UK.
 - 5th Statistical & Scientific Data Base Management (SSDBM) meeting, 3–5 April, 1990, NC, USA.
 - Symposium on Distribution with Given Marginals (Frechet Classes), 4–7 April, 1990, Rome, Italy.
 - International Conference on Bootstrapping and Related Techniques, 4–8 June, 1990, Univ. of Trier, FRG.
 - 7th Annual Quality and Productivity Research Conference, 13–15 June, 1990, Univ. of Wisconsin, USA.
 - International Symposium on Multivariate Analysis and Its Applications, 18–22 June, 1990, Kunming, China.
 - 12th IFORS Conference on Operational Research, 25–29 June, 1990, Athens, Greece.
 - XXeme Ecole d'Été de Calcul des Probabilités, 1–18 July, 1990, Saint-Flour (Canada), France.
 - American Statistical Association, Joint Statistical Meeting, 6–9 August, 1990, Anaheim, Ca, USA.
 - Bernoulli Society, 2nd World Congress of the Bernoulli Society and 53rd Annual Meeting of the Institute of Mathematical Statistics, 13–18 August, 1990, Uppsala, Sweden.
 - 3rd International Conference on Teaching Statistics (ICOTS III) 19–24 August, 1990, Dunedin, New Zealand.
 - International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management, 22–25 August, 1990, Univ. of Hongkong.
 - Eleventh Prague Conference on Information Theory, Statistical Decision Function and Random Processes, 26–31 August, 1990, Prague, Czechoslovakia.

- German Statistical Week in Stuttgart/ FRG (International Conference, organized by the Union of German Municipal Statisticians and the German Statistical Society), 1–5 September, 1990, FRG.
- COMPSTAT 1990, 9–15 September, Dubrovnik, Yugoslavia.
- Managing Geographic Information Systems and Data-bases, 20–22 September, 1990, Lancaster Univ., U. K.
- International Conference on Information Technology. Commemorating the 30th Anniversary of the Information Processing Society of Japan (IPSJ), 1–5 October, 1990, Shinjuku, Tokyo.
- 3rd Conference of the International Federation of Classification Societies, 6–9 August, 1991, Heriot-Watt Univ., Edinburgh, Scotland.

●新刊・雑誌の紹介

- [ジャーナル] (抜粋)
- THE AMERICAN STATISTICIAN Vol.42,
Part. 1 1989
A. K. Formann, Constrained latent class models : Some Further Applications.
- COMMUNICATIONS IN STATISTICS Vol.18,
No. 1 1989
T. A. Shiraishi, Multivariate Multi – Sample Rank Tests for Location – Scale Alternatives.
E. Xekalaki and J. Panaretos, On Some Distributions Arising in Inverse Cluster Sampling.
- COMMUNICATIONS IN STATISTICS Vol.18,
No. 2 1989
A. Barr, A Multivariate Model for Discrete Data Sets.
- COMPUTATIONAL STATISTICS & DATA ANALYSIS Vol. 7, No. 2 1988
A. S. Hadi, Diagnosing Collinearity – Influential Observations.

COMPUTATIONAL STATISTICS & DATA ANALYSIS Vol.7, No.3 1988

A. Agresti and C. Chuang, Model – based on Methods for Estimating Cell Propotions in Classification Tables Having Ordered Categories.

COMPUTATIONAL STATISTICS QUARTERLY Vol.4, No.2 1988

T. A. Banet, Local and Partial Correspondence Analysis.Application to the Analysis of Electoral Data.

L. Kaufmann, P. K. Hopke and P. J. Rousseeuw : Using a Parallel Computer System for Statistical Resampling Methods.

COMPUTATIONAL STATISTICS QUARTERLY Vol.4, No.3 1988

I. Havranek and O. Soudsky, Using an Expert System Shell for Setting Statistical Package Parameters.

J. M. Prieto and J. M. Caridad, Algebraic Structure of the Restriction Matrix Imposed in a General Unbalanced Cross-Classification Model.

I. Terasvirta, G. Yi and G. Judge, Model Selection, Smoothing and Parameter Estimation in Linear Models Under Squared Error Loss.

COMPUTATIONAL STATISTICS QUARTERLY Vol.4, No.4 1989

L. Telegdi, Some Notes on MMDS and the Use of MDS for Detecting Consensus Clusters.

V. A. Sposito and M. B. Tirol, Computational Aspects of the Two – Way Classification Model Under L₁.

W. Gerisch and D. Abraham, A Program for Computing Non – Negative Estimates of the Variance Components of the Random Effects Two – Way Layout by Pooling Minimal Mean Squares with Predecessors.

FUZZY SETS AND SYSTEMS Vol.32, No.1 1989

J. S. Golan, Making Modules Fuzzy.

S. Nanda, On Intergration of Fuzzy Mappings.
I. W. Alderton, Function Spaces in Fuzzy Topology.

JOURNAL OF CLASSIFICATION Vol.6, No.1 1989

G. W. Furnas, Metric Family Portraits.

G. W. Milligan, A Validation Study of a Variable Weighting Algorithm for Cluster Analysis.

R. P. McDonald, An Index of Goodness-of-Fit Based on Noncentrality.

J. D. Carroll, G. De Soete, and S. Pruzansky, An Evaluation of Five Algorithms for Generating an Initial Configuration for SINDSCAL.

JOURNAL OF MARKETING RESEARCH Vol.116 1989

W. R. Dillon and N. Mulani, LADI : A Latent Discriminant Model for Analyzing Marketing Research Data.

D .S. Bunch and R. R. Batsell, A Monte Carlo Comparison of Estimators for the Multinomial Logit Model.

E. J. Johnson, R. J. Meyer, and S. Ghose, When Chice Models Fail : Compensatory Models in Negatively correlated.

A. R. Rao and K. B. Monroe, The Effect of Price, Brand Name, and Store Name on Buyer's Perceptions of Product Quality : An Integrative Review.

M. J. Greenacre, The Carroll-Green-Schaffer Scaling in Correspondence Analysis : A Theoretical and Empirical Appraisal.

J. D. Carroll, P. E. Green, and C. M. Schaffer, Reply to Greenacre ' s Commentary on the Carroll-Green-Schaffer Scaling of Two-Way Correspondence Analysis Solutions.

L'ANALYSE DES DONNEES Vol.14, No.1 1989

Programmes d'analyse des correspondances et de classification ascendante hiérarchique : notice d'utilisation.

Programmes de creation de tableaux : notice d'

- utilisation.
- Programmes de représentation cartographique des résultats d'une analyse multidimensionnelle : notice d'utilisation.
- L'ANALYSE DES DONNEES Vol.14, No.3 1989
- Classification des départements français d'après les thèmes des vignettes apposées sur les automobiles.
- PATTERN RECOGNITION Vol.22, No.2 1989
- R. J. Hathaway, J. W. Davenport, and J. C. Bezdek, Relational Duals of the c -means Clustering Algorithms.
- R. W. Klein and R. C. Dubes, Experiments in Projection and Clustering by Simulated Annealing.
- PATTERN RECOGNITION Vol.22, No.3 1989
- N. G. Bourbakis and A. Klinger, A Hierarchical Picture Coding Scheme.
- R. Sitaraman and A. Rosenfeld, Probabilistic Analysis of Two Stage Matching.
- PATTERN RECOGNITION Vol.22, No.4 1989
- P. J. Sobey and E. C. Semple, Detection and Sizing visual Features in Wood Using Tonal Measures and a Classification Algorithm.
- PATTERN RECOGNITION Vol.22, No.5 1989
- J. G. Postaire and A. Touzani, Mode boundary Detection by Relaxation for Cluster Analysis.
- S. Spivak, A Multisurface Method for Pattern Classification.
- J. -M. Jolion and A. Rosenfeld, Cluster Detection in Background Noise.
- PSYCHOMETRIKA Vol.53, No.4 1988
- H. Goldstein and R. P. McDonald, A General Model for the Analysis of Multilevel Data.
- PSYCHOMETRIKA Vol.54, No.1 1989
- D. L. Knol and J. M. F. ten Berge, Least-Squares Approximation of an Improper Correlation Matrix by a Proper One.
- R. F. Fagot and R. M. Mazo Association Coefficients of Identity and Proportionality for Metric Scales.
- P. G. M. Van der Heijden, Correspondence Analysis of Longitudinal Categorical Data.
- C. Glymour, R. Scheines, P. Spirtes, and K. Kelly, Discovering Causal Structure : Artificial Intelligence, Philosophy of Science, and Statistical Modeling.
- PSYCHOMETRIKA Vol.54, No.2 1989
- T. R. Jefferson, J. H. May, and N. Ravi, An Entropy Approach to the Scaling of Ordinal Categorical Data.
- SYSTEMATIC ZOOLOGY Vol.36, No.4 1987
- R. S. Corruccini, Univariate Versus Multivariate Morphometric Variation : An Alternate Viewpoint.
- G. C. Steyskal, On the Naming of Higher Taxa.
- SYSTEMATIC ZOOLOGY Vol.37, No.1 1988
- R. Hengeveld, Mayr's Ecological Species Criterion.
- D. Simberloff, Effects of Drift and Selections on Detecting Similarities Between Large Cladograms.
- SYSTEMATIC ZOOLOGY Vol.37, No.2 1988
- P. A. Verrell, Stabilizing Selection, Sexual Selection and Speciation : A View of Specific Mate Recognition System.
- SYSTEMATIC ZOOLOGY Vol.37, No.3 1988
- D. R. Brooks, Scaling Effects in Historical Biogeography : A New View of Space, Time, and Form.
- E. O. Wiley, Parsimony Analysis and Vicariance Biogeography.

SYSTEMATIC ZOOLOGY Vol.37, No.4 1988

A. G. Kluge, Parsimony in Vicariance Biogeography : A Quantitative Method and a Greater Antillean Example.

J. K. Liebherr, General Patterns in West Indian Insects, and Graphical Biogeographic Analysis of Some Circum-Caribbean Platynus Beetles (Carabidae).

N. I. Platnick and G. Nelson, Spanning-Tree Biogeography : Shortcut, Cetour, or Dead-End ?

SYSTEMATIC ZOOLOGY Vol.38, No.2 1988

A. H. Bledsoe and F. H. Sheldon, The Metric Properties of DNA-DNA Hybridization Dissimilarity Measures.

C. R. Chandler and M. H. Gromko, On the Relationship Between Species Concepts and Speciation Processes.

R. E. Plotnick, Application of Bootstrap Methods to Reduced Major Axis Line Fitting.

K. M. Somers, Allometry, Isometry and Shape in Principal Components Analysis.

F. L. Bookstein, "Size and Shape" : A Comment on Semantics.

事務局から

●新幹事会役員

平成元年7月22日に開かれた平成元・2年度第1回運営委員会において、次の方々が平成元・2年度幹事会役員に選出されました（6ページ参照）。

幹事長

矢島敬二（東京理科大学）

幹 事

庶務会計 大隅 昇（統計数理研究所）

広 報 高橋伊久夫（アーク情報システム）

涉 外 上田尚一（龍谷大学）

涉外補佐 林知己夫（放送大学）

なお、涉外補佐の林氏は、IFCSのCouncil Committeeの委員であるということから、幹事会メンバーに入ることが承認されたものです。

●会報記事の募集

会員の皆様からのご意見やご希望を会報に掲載したいと考えております。ソフトウェアに関する情報、最新手法の紹介、外国の分類研究情報、他学会の動向、研究室の訪問記など記事をお寄せ下さい。幹事会のメンバーの守備範囲がどうしても限られてしましますので、ご意見、ご希望などをお寄せ頂けると助かります。

また、会員の皆様への情報提供として、各種学会、シンポジウム、研究集会等の案内を掲載して行きたいと考えております。現在、掲載ご希望の学会など、あるいは今後、動向を知りたい学会名等、どんな情報でも、お知らせ下さい。

宛先：〒106 東京都港区南麻布4-6-4
統計数理研究所内
分類研究会事務局

●会費納入のお願い

平成元年度の会費納入をお願いします。

また、昨年度までの会費（2000円／年）を未納の方はすみやかにご入金願います。会の円滑な運営のためにもよろしくご協力下さい。

郵便振替口座 東京8-83836

銀行口座 三菱銀行広尾支店 普通0134368

なお、水曜日には事務員がおりますので、直接持参される方は水曜日にお願いいたします。

